

栃木県ヤングケアラー実態調査 調査結果（速報値）のポイント

【児童・生徒向け調査】

1 お世話をしている家族がいる割合は、国の調査と比較して全体的に高い傾向にある。（P2）

①小学6年生

	いる	いない	無回答
県	12.0	87.1	0.9
国	6.5	93.5	0.0

②中学2年生

	いる	いない	無回答
県	8.2	91.1	0.7
国	5.7	93.6	0.6

③高校2年生（全日制）

	いる	いない	無回答
県	5.0	94.3	0.7
国	4.1	94.9	0.9

2 お世話をしている頻度は、「ほぼ毎日」と回答した児童・生徒が多いが、国の調査と比較して、お世話をしている頻度は少ない。（P3）

①小学6年生

	ほぼ毎日	週3～5日	週1～2日	1ヶ月に数日	その他
県	33.8	20.1	17.3	9.0	19.7
国	52.9	16.0	14.4	5.5	11.1

②中学2年生

	ほぼ毎日	週3～5日	週1～2日	1ヶ月に数日	その他
県	35.3	16.1	15.4	10.4	22.7
国	45.1	17.9	14.4	4.7	17.9

③高校2年生（全日制）

	ほぼ毎日	週3～5日	週1～2日	1ヶ月に数日	その他
県	37.4	12.7	12.5	9.5	28.0
国	47.6	16.9	10.4	6.8	18.3

3 お世話に費やす時間は、小学6年生で「1～2時間未満」、中学2年生、全日制高校2年生で「3時間未満」と回答した児童・生徒が多い。

お世話をしている頻度別でみると、小学6年生で「1～2時間」、中学2年生、全日制高校2年生で「3時間未満」と回答した児童・生徒のお世話をしている頻度は少なく、お世話に費やす時間が短い児童・生徒は頻度も少ない傾向にある。一方、お世話に費やす時間が長い児童・生徒は、頻度が多い傾向にある。（P4・5）

4 お世話を必要としている家族は、小中高校生ともに「きょうだい」の割合が最も高く、次いで「母親（お母さん）」の割合が高くなっている。（P6）

5 お世話について相談した経験がある児童・生徒は、小学6年生で 23.9%、中学2年生で 18.9%、全日制高校2年生で 16.5%と、国の調査と比較して若干低い傾向。（P7）

6 相談相手は、小中高校生ともに、「家族」、「友達」、「学校の先生」が上位。（P8）

7 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援は、「特にない」と回答した児童・生徒が多いが、「特にない」を除くと、「自由に使える時間がほしい」と回答した児童・生徒が多い。（P9）

8 相談する手段は、直接会って相談することを希望する児童・生徒が多い。（P9）

9 ヤングケアラーの自覚については、家族のお世話をしている人で、自分がヤングケアラーに「あてはまらない」と回答した生徒は4割前後。（P10）

【学校向け調査】

1 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもがいる学校は、小学校で 21.3%、中学校で 35.8%、全日制高校で 40.9%と、国の調査と比較して若干低い傾向。（P13）

2 ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないだケースは、小学校、中学校で「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」、「外部の支援にはつないでいない（学校で対応している）」と回答した学校がほぼ同数で、外部と連携して対応している割合は高くない。（P14）